

ペラルゴニュームとその仲間

村上 睦朗

(恵泉女学園短期大学名誉教授)

Pelargonium

MURAKAMI Mutsuo

はじめに

どこの家庭にも1株はあると思えるほどに広く普及しているゼラニューム、一方でペラルゴニュームは難しい名前でも舌をかむようだとなかなか馴染んでもらえない。でも、どちらも同じペラルゴニューム属の園芸植物です。

このペラルゴニュームは、恵泉女学園とかかわりの深い植物です。アメリカなどから新しい品種の導入とそれらの品種の栽培・利用や普及に努めてきたといえます。

ペラルゴニュームはアザレヤに似た花の形をしています。育てやすく、挿し木でかんたんに殖えるのもっと利用されても良い植物です。花が雨に弱く露地植えには適しませんが、プランターにまとめて植えたり、大株仕立てにすると窓辺やベランダを華やかにしてくれます。

1 ペラルゴニュームと恵泉のかかわり

ペラルゴは明治時代に始めてわが国に紹介されたといわれます。実際に鉢花として流通し始めたのは第2次大戦以降、それも1960年代後半からです。山口美智子先生が柳宗民先生、伊豆大島の園芸家寺田博さんに相談して、将来的にわが国の家庭のハウスプラントとして期待できる鉢物^{かき}花卉としてこのペラルゴニュームを選定されたのが始まりです。

園芸科が小平から伊勢原へキャンパス移転し、本格的な温室栽培が可能に

なり、山口先生がアメリカ在外研修を機にペラルゴニュームの専門育種業者を選び、品種を選定し、導入をおこなわれました。その後も数回にわたって異なる種苗会社からも苗が輸入され、短期大学園芸生活学科・花卉の農場実習、専修卒論の研究材料として利用されてきました。一方で、『農耕と園芸』誌、『趣味の園芸』誌、などの品種紹介と栽培の楽しみ方など広く紹介されました。その他にもNHK「趣味の園芸」の放映、園芸文化協会展での展示、などによって、ペラルゴニューム品種の紹介がおこなわれ、新品種に関心を持った若い生産者が直接恵泉女学園短期大学園芸生活学科に親株として購入のために来校するようになりました。

一方で、タキイ種苗、サカタのタネを通じて通信販売が行われました。さらに、プレーダー、恵泉デーでも多くの苗や鉢花が全国的に持ち帰られました。

ペラルゴニュームの種苗登録品種を多く生み出している藤沢の鈴木清次さんは、伊勢原の恵泉女学園で求めた株が現在の新品種につながっていると述べています。このいきさつについて、2012年「史料室だより18号」(恵泉女学園史料室発行)にも紹介されています。

2 ペラルゴニュームのふるさと南アフリカ

園芸でペラルゴニュームと呼ばれる園芸植物は、植物学的には、ペラルゴニューム属です。

ペラルゴニューム(テンジクアオイ)属には約250種があり、1年草、宿根草、あるいは低木で、そのほとんどが南アフリカに分布しています。普通に栽培されるペラルゴニュームは宿根草を中心とした原種をもとに、主にヨーロッパ、アメリカで交雑育種されて生まれた園芸種です。

これらは、次の4グループに分けられます。

- ①ペラルゴニューム
- ②ゼラニューム
- ③アイビーゼラニューム
- ④ニオイゼラニューム

○ ペラルゴニュームの仲間

ペラルゴニューム *Pelargonium × domesticum*

一般に「ペラルゴニューム」と呼ばれる園芸品種群は「ナツザキテンジクアオイ」ともよばれます。ペ. グランディフローラム、ペ. ククラツムなど数種の原種の交雑によって作出されたものです。17～18世紀にイギリスに導入され、その後フランス、ドイツさらにアメリカでも育種が進められて来ました。花は、5センチ以上の大輪のものから2、3センチの小輪まであり、開花期には株を覆うように多くの花をつけます。草姿は低木状で、よく分枝し、条件がよければ1m以上にもなり、茎の基部は木化します。ゼラニュームより冬の寒さには弱い、夏の暑さには強い性質を持っています。花芽ができるためには7度以下の低温に1ヶ月以上あうことが必要です。冬季にも気温が下がらない暖地では花数が少なくなります。一方、冷涼な地域では夏でも開花し全体の開花期間が長くなります。このペラルゴニュームは普通一季咲きとされますが、一般地では5月～7月まで開花します。

ゼラニューム *Pelargonium × hortorum*

園芸上「ゼラニューム」と呼ばれるこのグループは、品種数も多く、鉢物、プランター、ウインドウボックスの他、欧米ではとくに花壇栽培には欠かせない材料となっています。茎葉に独特のにおいがありそれを嫌う人もいますが、どの家庭にも一鉢はあるかと思えるほどによく普及しています。乾燥に強く、さし木による繁殖も容易で、長く楽しめる多年生の草花です。

花は四季咲き性、一重、八重咲きがあり、花色は赤、鮭肉、紫紅、白など。

挿し木などで繁殖する栄養系品種に対して、タネから栽培が始められる種子系一代雑種(F₁)の品種が近年多くなっています。早咲き、多彩な色、強健、多花性などの品種特性を持っていて、一年草と同じあつかいができるため、わが国でも花壇に使えるようになっています。

斑入り葉ゼラニューム(五色葉ゼラ) *P. zonale*もゼラニュームの仲間で、花とともに葉の斑入りも楽しむものです。葉の斑紋が白、黄白、茶褐色の他、赤、桃、紫系のもも現れ多彩です。

ゼラニウムの呼び方：はじめにGeranium属に分類され、後になってPelargonium に分類されなおした名残でゼラニウムと呼ばれる。Geranium属のフクロソウはゲラニウムと呼んで区別されている。ナツザキテンジクアオイはそのままペラルゴニウムと呼んでいる。

アイビーゼラニウム *Pelargonium peltatum*

ペラルゴニウム ペルテータム (ツタバテンジクアオイ) を中心に改良された園芸種。この特徴は、葉と茎にあって、葉は浅い5つの切れ込みのある盾形またはハート型で、やや多肉質、光沢があります。英名のアイビリーブドゼラニウムから「ツタバゼラニウム」とも呼ばれます。茎は細く、しなやかで地面を這うか、下垂するか、何かにそって登る性質を持っています。花色は紫紅、赤、桃、白のほか複色花もあります。一重、半八重、八重咲きがあります。

ほぼ四季咲き性ですが、暑さには弱い性質があります。鉢植え、吊鉢、フラワーポットなどのほか壁面を飾る花壇、など。カリフォルニアなど乾燥する地域ではグランドカバーとしても利用されます。

ニオイゼラニウム

主に花を觀賞するゼラニウム、アイビーゼラニウム、ペラルゴニウムはいずれも茎葉に特有のニオイをもっています。これ以外で、茎葉に芳香を持っている種を「ニオイゼラニウム」として区別しています。それぞれ香の名をとってローズゼラニウム (*P.graveolens*)、パインゼラニウム (*P.denticulatum*)、ナツメグゼラニウム (*P.fragrans*) などと呼ばれ、よく栽培されます。ほかにも、レモン、アップル、ココナツ、アーモンド、ストロベリーなどの芳香のある種類がハーブゼラとも呼ばれて栽培されます。

3 ペラルゴニウムの開花中の手入れと楽しみ方

開花中の手入れ

早いものは4月から咲き始め、ほとんどの品種が、5月から梅雨が明けるまでの6月いっぱい咲き続けます。ここでは、5月から6月までの開花中の管理

を説明します。(その他の時期の管理・作業は年間作業暦参照)

置き場

5月になると、気温も安定してくるので戸外に出してもよいのですが、ペラルゴニュームは花卉が湿気に弱いので、雨に当てると花が傷んでしまいます。そこで、日当たりのよい窓辺や縁側、ベランダやポーチに置いて雨に当てないようにします。

水やり

土の表面が乾いたら水やりします。開花中は土をあまり乾燥させると株が傷むので、水切れにならないようにじゅうぶん注意します。株が茂ってくると蒸散が盛んになり晴天では予想外に乾きます。花や葉に水がかからないように株元にジョウロなどで鉢底から水が出るまでたっぷり与えます。

肥料

燐酸、カリ成分の比率が高い緩効性化成肥料を一ヶ月間隔で与えるか、液肥を1週間間隔で植物の様子を見ながら施します。肥料不足になると下葉が黄色なって落葉しやすくなります。

花がら摘み

湿度が高くなると、散った花びらが葉について、その部分からボトリチス病が発生して葉を枯らすことがあります。咲き終わった花がらは切り、散った花びらは取り除くようにします。

○プランターに植えて楽しむ

プランターに何株かまとめて植えると、ペラルゴニュームの華やかさがさらに際立ってきます。

用土は赤玉土3;腐葉土1;パーライト1などの割合とし、土1リットルあたり苦土石灰3グラム、化成肥料3グラムを加えたものなど。やや重い土で植えます。鉢植えのままで観賞する場合より、生育が旺盛になり、そのうえ灌水の回数も少なくなって管理がしやすくなります。

○切花にして楽しむ

茎が直立性で、草丈が高い品種は、切花にして楽しめます。パンジーゼラ

の1つのマダムレイアルは欧米で昔から花束にして愛されていました。また、母の日にジョイの花束は好評でした。

○押し花にして楽しむ

小輪のパンジーゼラやジョイ、フラワーなど他の種類にはない色合いの品種は、押し花として利用するとまた、楽しみが増えます。キズのない十分開花した花を摘み、花弁が折れないように丁寧にティッシュペーパーなどに挟んで、それを雑誌や新聞紙に挟みます。重石を載せて、新聞紙は毎日取り替えます。十分乾いてから、シリカゲル入りの容器に入れて保存します。

4 ふやし方

ペラルゴニュームは挿し木でよく発根し、殖やすことができます。

挿し木

適期 ペラルゴニュームの発根適温は18度位ですので、暑さが治まりはじめる9月半ばから10月上旬におこないます。

さし穂は茎の先端部を葉4枚～5枚つけて切り取り、清水に切り口を漬けて水揚げします。基部の葉を1-2枚はずして、切り口がきれいになるようにカッターで切り戻して挿します。

用土は赤玉土1:パーライト1.7,5センチポットに1本ずつ挿します。一般には、春～秋の適温期に挿し木します。ただ、ペラルゴニュームは高温では発根が思わしくなく、開花期との関係から6月か9～10月にさし木を行います。

灌水と施肥

芽が生長を始めたら薄い液肥を与え、ポットの底から根が出始めたら鉢替えします。用土は赤玉土、腐葉土3:1の混合土に、5号鉢あたり苦土石灰と緩効性化成肥料それぞれ小さじ1杯くらい混ぜて、植えつけます。生育の盛んな時期に2週間に1回くらい液肥を与えます。

置き場

直接雨が当たらない、通風の良いベランダや、軒下の明るい場所が良く、日よけ、と風除けのため寒冷紗2枚等をかけておきます。10日ほどたってしおれ

なくなった頃1枚にします。1～2ヶ月で発根してきます。

肥料

発根して新芽がのびはじめたら、液肥を2週間に1回の割合で与えます。

摘心

新芽の伸びがよくなったら、摘心します。適期は11～12月頃です。芯を摘むことで側枝の発生を促します。

鉢ゆるめ

側枝が1センチくらいに伸びた頃仕上げの鉢に鉢上げします。適期は2月頃です。

定植後の管理

冬の間は室内の日当たりのよいところに置き、乾いたら水やりします。3月頃、化成肥料を小さじに半杯くらい与え、株の生育を促します。

冬越し、切り戻し

いずれも、5度以上の気温が保てることが望ましい。ペラルゴニュームは冬季の低温で花芽分化し、春の高温長日期に開花する性質を持っています。秋に挿し木後、発根苗は乾燥気味に管理し、最低気温5度くらいのところで直射日光に当てて育てます。春になり、生育が盛んになる頃から液肥と水を十分与えます。

開花

つぼみが見え始めるのは3月から4月始め頃になります。開花は発雷後3週間頃になります。

ペラルゴニュームの株の切り戻しは7月か9,10月ころに行ないます。

ペラルゴニュームの年間の管理・作業暦

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
置き場	=====						~~~~~					
	雨をよけて日当たりのよいところ						室内、日当たりのよいところ、 0度以下になると枯れるので注意					
水やり	#####						~~~~~					
	開花期と夏季は特に乾燥させないように注意						乾いたら与える、過湿に注意					
肥料	=====											
	⇔		⇔				⇔					
	緩効性化成肥料		年間を通じて2週間おきに液肥									
植え替え	●●7月中旬 花が終わった頃											
繁殖	⇔ ⇔						9~10月 × 摘心			鉢上げ		



1. ゼラニウム 'プロミス'



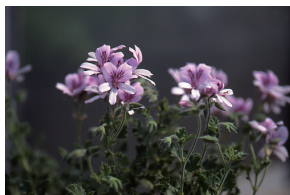
2. ゼラニウムのプランター
植え 'ラジORED'



3. 五色葉ゼラニウム
'スカイオブイタリー'



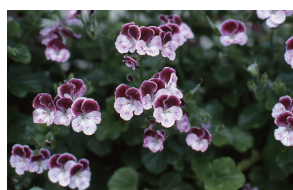
4. アイビーゼラニウム
'ギャラリー'



5. ニオイゼラニウム
'ライム'



6. ペラルゴニウム
'ジョイ'



7. ペラルゴニウム
'マダムレイヤル'



8. ペラルゴニウム
'モーニンググローリー'



9. ペラルゴニウム
'フラー'



10.ペラルゴニウム
'アブローズ'



11.ゼラニウムの花壇



12.ペラルゴニウム
プランター植えによる展示



13.ゼラニウム、
ペラルゴニウムの
プランター植えの展示



14.ペラルゴニウムの放射
線育種試験 ガンマー線
照射による変異の出現
品種'ラベンダーギブソン
ガール'